

【手賀沼親子自然観察会】

主催:手賀沼水生生物研究会
:手賀沼流域フォーラム
共催:全国ブラックバス防除市民ネットワーク
協力:美しい手賀沼を愛する市民の連合会

日時:2010年9月26日(日) 10:00~12:00
天気:晴れ
参加者数:65名 (子供36人、大人29人)
スタッフ:13名



講師:萩原さんのお話
手賀沼の魚を知ろう (無関心が、目立たない水中の生き物を絶滅させる)



タモ網を使ったガサガサでの魚とり



講師:左村さんのお話
手賀沼・ヒドリ橋付近の秋の植物

【観察会の内容】

昨日までの台風が心配されましたが、秋晴れの晴天に、65名もの一般の方々が参加され、手賀沼についての関心の高さが覗われました。10時から主催者あいさつの後、講師の萩原富司さん「魚類研究者、土浦の話

など専門的な内容でしたが、子供たちの関心は驚くほど高かったのが印象的でした。無関心が、目立たない水中の生き物を絶滅させるという副題にもあるように、自然観察会での手賀沼生き物との触れ合いを通じて、今後、自然を大事にするということが、子供たちにも伝わったものと思います。

その後、モンドリを各自水路に設置してもらい、タモ網を使った通称(ガサガサ)で魚とりを楽しみました。秋の用水路は、たくさんの生き物が取れ、用意した種類別の水槽に分ける作業をしてもらい、取れたものの種名なども覚えてくれるよう配慮しました。

11時から講師の左村義弘さん(「野・花・山・写真の会代表」で「柏市自然環境市民調査員」)が、「手賀沼・ヒドリ橋付近の秋の植物」という内容でのお話がありました。実物の植物を手にしなが、普段見過ごしがちなところにも目が行き届くような専門的なお話や、炭素の循環といった生態系全般までの話は及びました。

その後、設置したモンドリを引き上げてもらい、最後まで面倒を見てくれるという条件のもと、希望者には取れた生き物を、持ち帰って飼育してもらうことにし、12時で閉会としました。

しばらく手賀沼のガサガサをしないでいるうち、生物相がまた変わったこともわかりました。前日の土曜日の事務局の下見では、フィッシングセンター脇の手賀川でもモツゴ、スジエビなどのほか、ツチフキが多数とれタイリクバラタナゴの稚魚がたくさん取れた場所もありました。

用水路でカムルチーやブルーギルがとれたのも初めてでした。萩原さんが同定してくださったシナヌマエビは、今年6月頃にヒドリ橋の水路で初めて発見し、複数とれていることを考えても明らかに増えていると思わ

れます。

手賀沼大津川河口、ヒドリ橋付近の水路で観察できた生き物

水生生物 在来種:モツゴ、スジエビ、テナガエビ、ヨシノボリ、ヌマチチブ、メダカ、アカガエル、ミズカマキリ
国内外来種:ツチフキ、スゴモロコ、シナヌマエビ、
外来種:ブルーギル、ウシガエルのオタマジャクシ、アメリカザリガニ、ライギョ、タイリクバラタナゴ

植物 草花 ダテ科 在来種:シロバナサクラダテ、ヤナギダテ、イシミカワ、サデグサ
キク科 在来種:タカサブロウ、外来種:アメリカセンダグサ
カヤツリグサ科 外来種:ホソミキンガヤツリ
ゴマノハグサ科 外来種:タケトアゼナ

抽水植物 イネ科:ヨシ、マコモ ガマ科:ヒメガマ
樹木 ヤナギ科 アカメヤナギ、カワヤナギ、エノキ

鳥類 オオタカ、ハヤブサ、ノスリ、モズ、コサギ、アオサギ、



シナヌマエビ

写真提供:萩原富司氏